

平成28年度 第4回社会保険等システム検討委員会 議事録

(平成28年10月21日(金)19時00分~21時00分 東京医科大学病院新研究棟12F1201)

出席

担当理事：大川 淳、委員長：青田洋一

委員：遠藤健司、鈴木秀和(書記)、山田浩司、渡辺航太

アドバイザー：平泉 裕

欠席

武者芳朗、山縣正庸、伊藤淳二、種市 洋、吉井 俊貴

報告事項

外保連委員報告(手術、処置、検査試案、広報)

1) 手術委員会 2016/9/16 出席：山田、渡辺

新術式、改定について：

JSSRからの提出案件

a) 頸椎人工椎間板(新規)：50例以上のデータ+PMDAの認可が必要

PMDAの認可見込みであるが、申請は症例数が達した時点とする

b) 椎間板髄核融解術(新規)：50例以上のデータ+PMDAの認可が必要

PMDAの認可は遅れる見込み。

手術ではなく、椎間板穿刺(処置)になる見込みであり、あまりにも点数が低い
ため、単純・複雑で分けるなどして対応して方針とする。

c) 画像等手術支援加算 陰性立体モデルによるもの(改正)

K939-3に追加適応で申請へ 本数に応じた増点を検討していく。

d) 脊椎固定術に対する脊椎インスト手技(改正)：データ収集の結果、外保連試案と
大差なかった。

データを載せて申請。主学会を当学会に変更する。

2) 処置委員会 (平泉委員長) 10/6(木) 18:00-21:00 出席：鈴木、遠藤

1年ごとに0.35技術度指数上昇に伴う試案の見直し(人件費の内視鏡試案との乖離を
無くす)について、10倍以上増となったものについて個々検討された。

手の外科学会より申請されるDepuytren拘縮に対する酵素注入が手術でなく処置申請
となった 椎間板髄核融解も手術での申請は困難な見込みとなった。

3) 検査委員会 10/14(金) 18:00-19:30 出席：山田

【ご報告概要】

JSSR からの新しい試案はなし。

11月30日が提出締め切り。

形成外科より、K939-2 実物大臓器立体モデルによる手術計画（その他）の試案あり。

（現試案：116,430円、0.35up 試案：218,430円）

現実的には採用は困難な見込み。

手術前に行っている行為は「手術」ではなく、「検査」とのこと。

今後、0.35up 試案については、原案と10倍の開きがあるものなどを中心に

審議していく予定。

4) 広報委員会 担当：山田

今後、JSSR からモステートメントを出せるように事前準備が必要。

第12回 記者懇談会 12月13日（火）18:30-20:00 日本外科学会事務所会議室

テーマ： 28年度診療報酬改定の検証と30年度診療報酬改定に向けて

日本産科婦人科学会

日本麻酔科学会

日本呼吸器外科学会

日本耳鼻咽喉科学会

2. 審議事項

30年度要望リスト（新規5件、改正8件、材料3件）

新規要望（優先順）

(1) PPS（手術試案あり） 厚労省プレゼン（山田先生）

(2) OPLL 前方（頸胸椎） 厚労省プレゼン（吉井先生）

(3) 高度脊柱変形 試案整備

人工椎間板（製品承認未で試案無しのため要望できず） 見送り

改正要望

(1) K939 画像等手術支援加算の適応拡大；陰性モデルを脊椎領域にも拡大すること

(2) K142 脊椎固定術の適応拡大：腰椎分離部修復術ならびに歯突起骨折骨接合術

材料要望

(1) 脊椎手術時のマイクロドリル（ハイスピー）ダイヤモンドバー及びスチールバー

(2) 顕微鏡使用手術での清潔カバー

(3) 脊髄硬膜閉鎖用クリップ

INST学会との合同データベースの構築、新規技術に向けた流れについて

INST学会委員長： 松山幸弘教授と審議した。

- 1) NCD データベースの外保連利用の現状について
- 2) 骨関節感染症学会 SSI データベース と INST学会との合同データベース作成の可能性について
- 3) INST学会データベースに以下のような当学会として必要な外保連関連データの登録を打診していく
 - (1) 対応する適切な K code があるかどうか？ : はい、 いいえ
 - (2) 対応する K code がある場合、その番号： K- ???-? (複数記載可)
の2点の調査をお願いしたいと思います。目的としては、
 - (3) 優先して申請すべき適切な K code が存在しない術式

広報活動

次々回以降の日整会、JSSR での医療診療報酬決定までのプロセスをシンポジウム、ポスター表示など検討していく

要望項目についての公募

アンケートを増やすべきとする意見もあったが、過去2回では回収率が低く、把握していない案件が出てきた例もないため、多くても試案作成にあわせて2年に一回程度とする。

上記について分科会と会議日程の作成

実務委員が新規、改訂、材料の要望提出。

来年夏の厚労省ヒアリングはPPS(山田先生担当), OPLL 前方(吉井先生担当)の2件を中心に準備していく。

関連学会での発表活動

第8回 日本 MIST 研究会 演題登録内容(山田先生)

脊椎固定術に対するインストゥルメンテーション手術(外保連試案)の内容改定のための実態調査